



令和元年度 SIP 第2期 臨時課題評価結果

抜粋

令和元年6月27日

ガバニングボード決定

平成31年2月28日のガバニングボードにおいて「A」評価より低い評価を受けた以下の4つの課題について、今般、ガバニングボードの決定に基づき「SIP第2期課題評価ワーキンググループ」（座長：須藤亮 内閣府政策参与・SIPプログラム統括）において再評価を実施した。

【再評価対象の課題名】

- ◎ 「ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」（安西PD）
- ◎ 「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」（佐相PD）
- ◎ 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」（小林PD）
- ◎ 「脱炭素社会のためのエネルギーシステム」（柏木PD）

再評価の目的は、上記4課題について、本年2月の評価における指摘事項を踏まえて、研究開発内容や体制等が適切に見直され、その結果、前回と同様の評価項目で再評価した結果、平均以上（すなわち、「A」評価以上）に達しているか否かを確認するものである。

なお、上記4課題に対して配分予定の本年度予算のうち、現在、配分を留保している予算（各課題の全予算額の半分相当）については、今回の再評価において「A」評価以上に達していることをもって配分することとする。

ガバニングボードは、「SIP第2期課題評価ワーキンググループ」の再評価結果を基に、上記4課題の再評価結果を以下のとおり決定する。

再評価結果

課題名	フィジカル空間デジタルデータ処理基盤
PD名 (※敬称略)	佐相 秀幸

I. 総合評価結果

平成30年度課題評価では、主として、研究開発が総じてシーズドリボンで、特に、中心テーマとなる共通プラットフォームのニーズが明確でなく、社会実装の面でも懸念が残る点、国際動向を適切に把握した戦略が不明確な点等について指摘された。

本課題は、今回の再評価において、共通プラットフォームやコンソーシアム構想等について前回より理解しやすくなったと考えられるものの、依然として改善すべき点が少なからず存在する。

このため、ガバニングボードとしては、本課題の今後の進捗や成果、佐相PDのマネジメント手法等を注意深く観察することとしたい。また、須藤SIPプログラム統括におかれては、佐相PDがリーダーシップを発揮して本課題を適切に遂行し、着実に成果を上げることができるよう、定期的に意見交換を行い、適宜アドバイスを与えることを要請したい。

さらに、今後、本課題の評価が引き続き一定水準に至らない場合には、中止も含めて抜本的な見直しを可及的速やかに行うこととする。

総合評価

A

II. 主な指摘事項

- 共通プラットフォームの構築や共通基盤技術という観点からは、現状のままでは成果は期待しがたいのではないかと。なぜなら、共通プラットフォームの設計思想やアーキテクチャが明確でない(どのようにIPやノウハウをプールし、それをユーザーに使いわせるのか等も含めて)、戦略性が足りない(中規模程度のニッチな領域を狙うことで国際的に勝てる戦略なのか)、国内の主要プレーヤーが参加することをもって共通プラットフォームが機能するとは限らない。機能するための仕掛けが足りない。また、依然として、共通プラットフォームの構築に大きなニーズがあるのか理解できない。さらに、共通プラットフォームが不明瞭な中で、コンソーシアム(エコシステムの構築)は機能し得るのか疑問である。
- 他方、エッジコンピューティングを活用した組み込み型のシステム開発は、

当該領域での我が国企業の生き残りを考えた場合重要という見方に合理性がある。このため、共通プラットフォームの構築か、アプリケーション開発か、どちらの方向に進むべきかを明確にする必要があるのではないか。

- また、本課題においては、民間が自ら取り組むべき「競争領域」と国（S I P）で支援する「協調領域」という観点の検討も不足している。本来、民間で実施すべき領域をS I Pで支援しているおそれも引き続きあるのではないか。
- 工場内の通信規格など、標準化や規制改革等の制度面が重要となる研究開発テーマも含まれていることから、今後、その出口戦略も明確にすべきである。
- 本課題の研究テーマは、ソフトウェア及びハードウェアを含めて多岐にわたることから、佐相P Dを支えるサブP D等の充実を図り、佐相P Dが個々の研究開発の内容・進捗等の全体像をより確実に把握できる体制を構築すべきである。また、コンソーシアムの設立・運営を真剣に検討するのであれば、戦略・マーケティングに関する専門人材も必要ではないか。
- 管理法人のピアレビューについては、「平成30年度S I P第2期 課題評価結果」の指摘に対する対処具合をレビューするのみにとどまらず、当該分野の技術的専門家をピアレビュー審査委員として増員し、より専門性の高いピアレビューになるようお願いしたい。

（以上）

表 1 : 第 2 期課題評価のランク付け

評価	標語
S	極めて挑戦的な高度な目標を達成し、実用化・事業化も十分見込まれており、 <u>想定を大幅に上回る成果が得られている。</u>
AA	適切に設定された目標を大幅に達成しており、実用化・事業化も十分見込まれており、 <u>想定以上の成果が得られている。</u>
A+	適切に設定された目標を達成しており、実用化・事業化も十分見込まれるなど、 <u>想定以上の成果が得られている。</u>
A	目標の設定・達成ともに概ね適切であるなど、 <u>当初予定どおりの成果が得られている。</u>
A-	目標の設定又はその達成状況が十分ではないなど、 <u>予定を下回る成果となっている。</u>
B+	目標の設定又はその達成状況が極めて不十分で、 <u>予定を大幅に下回る成果となっている。</u>
B	目標の設定、その達成状況その他 <u>大きな改善を要する面がみられる。</u>

表 2 : 評価と得点の関係

評価	得点
S	140 点～
AA	130～140 点
A+	120～130 点
A	100～120 点
A-	90～100 点
B+	80～90 点
B	～80 点

(注) 平成 31 年 2 月 28 日ガバニングボードの評価結果に基づく。

S I P 第 2 期 課 題 評 価 W G 委 員 名 簿

◎座長

須藤 亮 内閣府政策参与・S I P プログラム統括

○委員

小豆畑 茂 元株式会社日立製作所フェロー

五十嵐 仁一 JX リサーチ株式会社代表取締役社長

江崎 浩 国立大学法人東京大学大学院情報理工学系研究科教授

岡崎 健 国立大学法人東京工業大学科学技術創成研究院特命教授

梶川 裕矢 国立大学法人東京工業大学環境・社会理工学院教授

北岡 康夫 国立大学法人大阪大学共創機構産学共創本部副本部長

君嶋 祐子 慶應義塾大学研究連携推進本部副本部長・法学部教授

小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所理事長

小向 太郎 日本大学危機管理学部教授

佐々木 良一 東京電機大学総合研究所特命教授

鮫島 正洋 内田・鮫島法律事務所代表パートナー弁護士

白井 俊明 横河電機株式会社マーケティング本部シニアアドバイザー

高島 正之 合同会社TMCコンサルティング代表社員

竹中 章二 池上通信機株式会社フェロー

林 いづみ 桜坂法律事務所弁護士

三上 喜貴 国立大学法人長岡技術科学大学特任教授・学長アドバイザー

吉本 陽子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社経済政策部
主席研究員

(※敬称略、五十音順)

臨時課題評価WGの審議実績

■令和元年5月31日 第1回会合

- 「脱炭素社会のためのエネルギーシステム」(柏木PD)

■令和元年6月3日 第2回会合

- 「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」(佐相PD)

■令和元年6月6日 第3回会合

- 「ビックデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」(安西PD)
- 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」(小林PD)